

【下流面右岸側】※写真 2.7～2.8

- ・ J12 より右岸側は新しいコンクリートにより補修済み。劣化は認められない。
- ・ J10～J12 間は、左岸側と同様、モルタルに亀裂や剥離の劣化が見られる。
- ・ この区間の特に顕著な劣化部は以下のとおり。
 - 1) J10～J10+10m 区間、岩着部 6m 付近：
横継目沿い亀裂が発達。亀裂から浸出水が認められる。J10+10m 付近では、一部脆弱なコンクリートが露出している。
 - 2) J11 沿いの幅 20cm 程度の部分：
モルタルが剥離、褐色を呈し脆弱化。
 - 3) J11+8m 付近、監査廊入口上部：
モルタルが剥離、脆弱なコンクリートが露出し、骨材の一部がポップアウト。
 - 4) J11+8m～J12：
モルタルに亀裂が発達。ハンマーの打音で濁音を発す。
堤体上部では、亀裂の補修跡が認められる。



写真 2.7 下流面右岸：J10+5m 付近

- ・ 横継目に沿ってひび割れが発達。
- ・ 亀裂沿いにモルタルが剥落し、水の浸み出しが見られる。



写真 2.8 下流面右岸：J11+10m 付近

- ・表面のモルタルにひび割れが発達し、その一部は剥落。
- ・コンクリートは脆弱で、骨材の一部はポップアウトする。

【越流部】 ※写真 2.9～2.10

- ・J9～J10 間で一部の横継目から遊離石灰が溶出している部分が見られるが、表面の亀裂や剥離等の劣化は殆んど認められない。



写真 2.9 越流部：J7+7.5m～J10

- ・越流部のコンクリートは健全で著しい劣化は認められない。天端橋梁・

橋脚は、修復後の新しいコンクリート。



写真 2.10 越流部：J7+7.5m～J10

- ・ 右岸 J10 寄りの横継目に、一部遊離石灰が見られる。

【上流面】※写真 2.11～2.14

- ・ 表面に塗布された樹脂が劣化し、剥離が進んでいるが、コンクリートについては、概ね健全箇所が多い。
- ・ 洪水吐周辺について、遊離石灰の漏出と塗装の剥離は著しい。
- ・ J7 付近の表面の剥落が顕著。水平打継目からも、一部剥落が見られる。